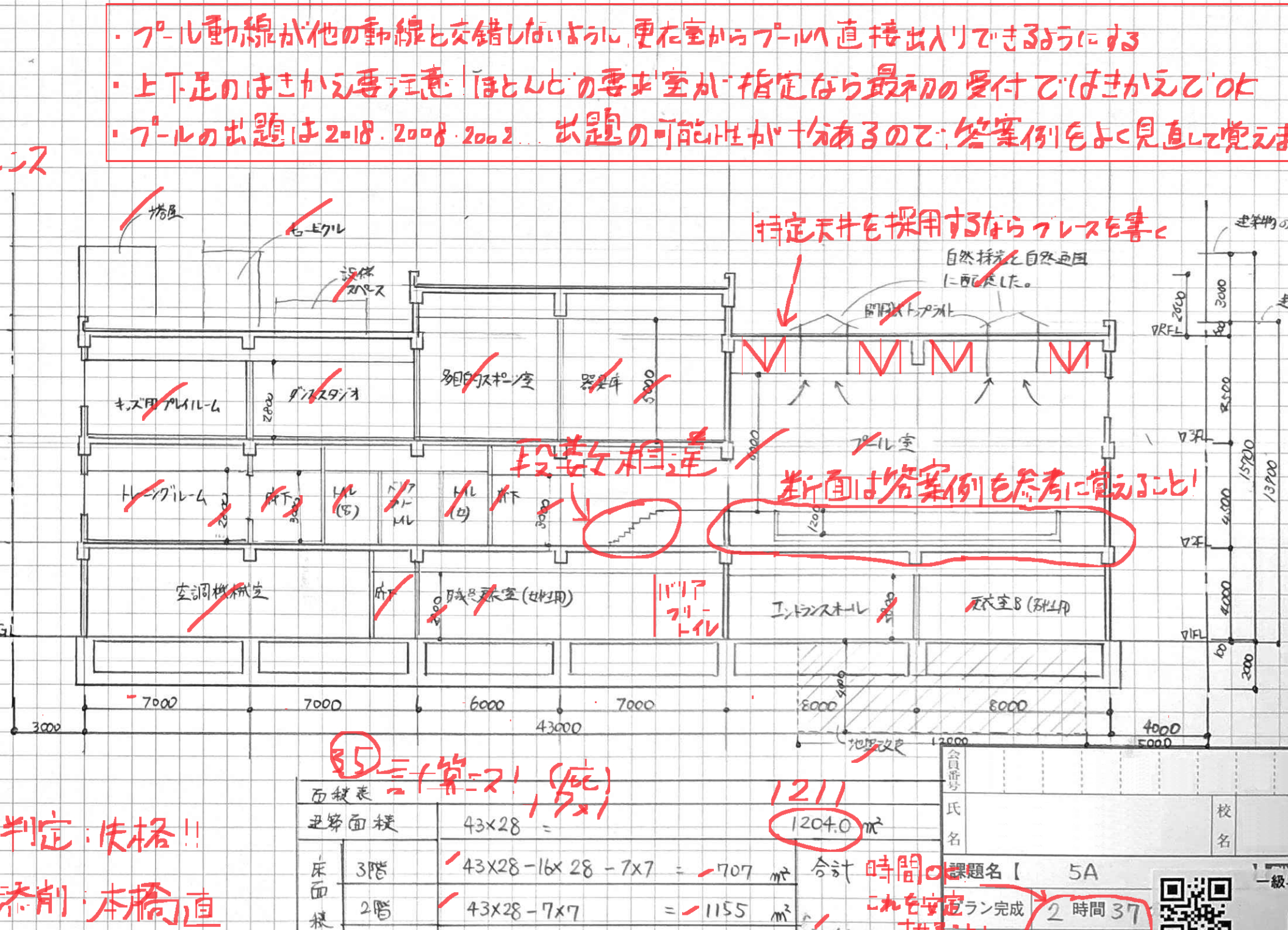
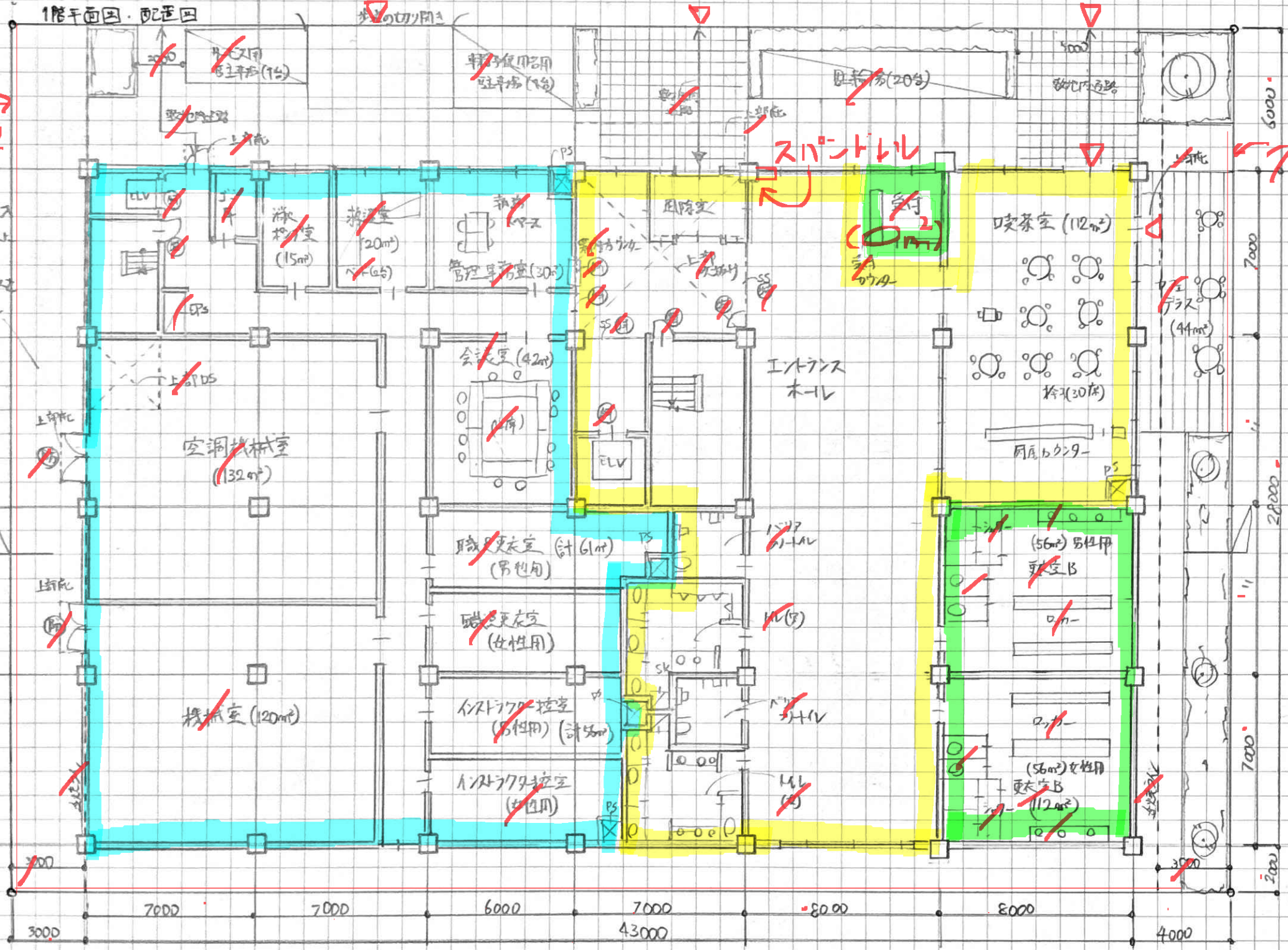
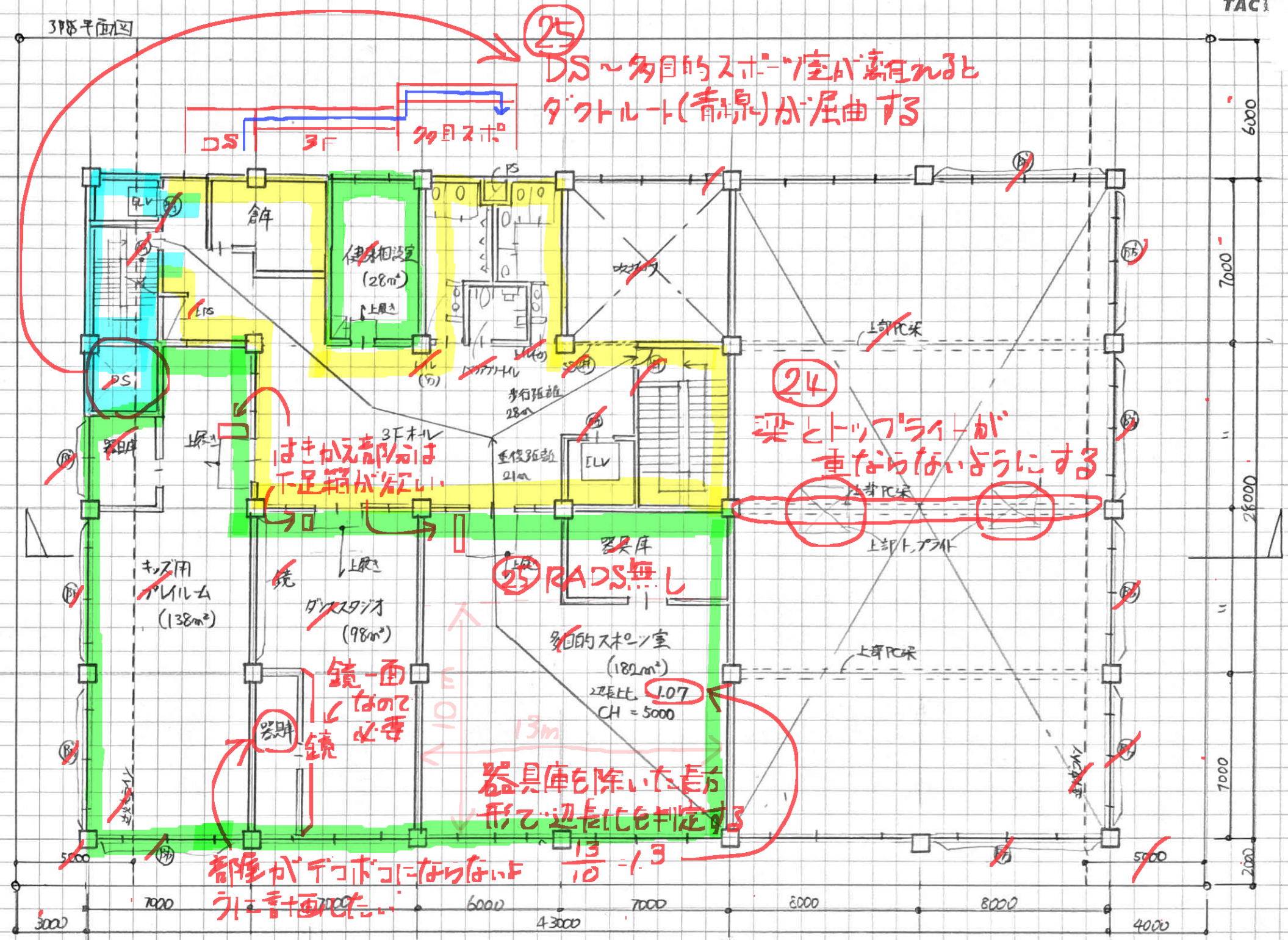
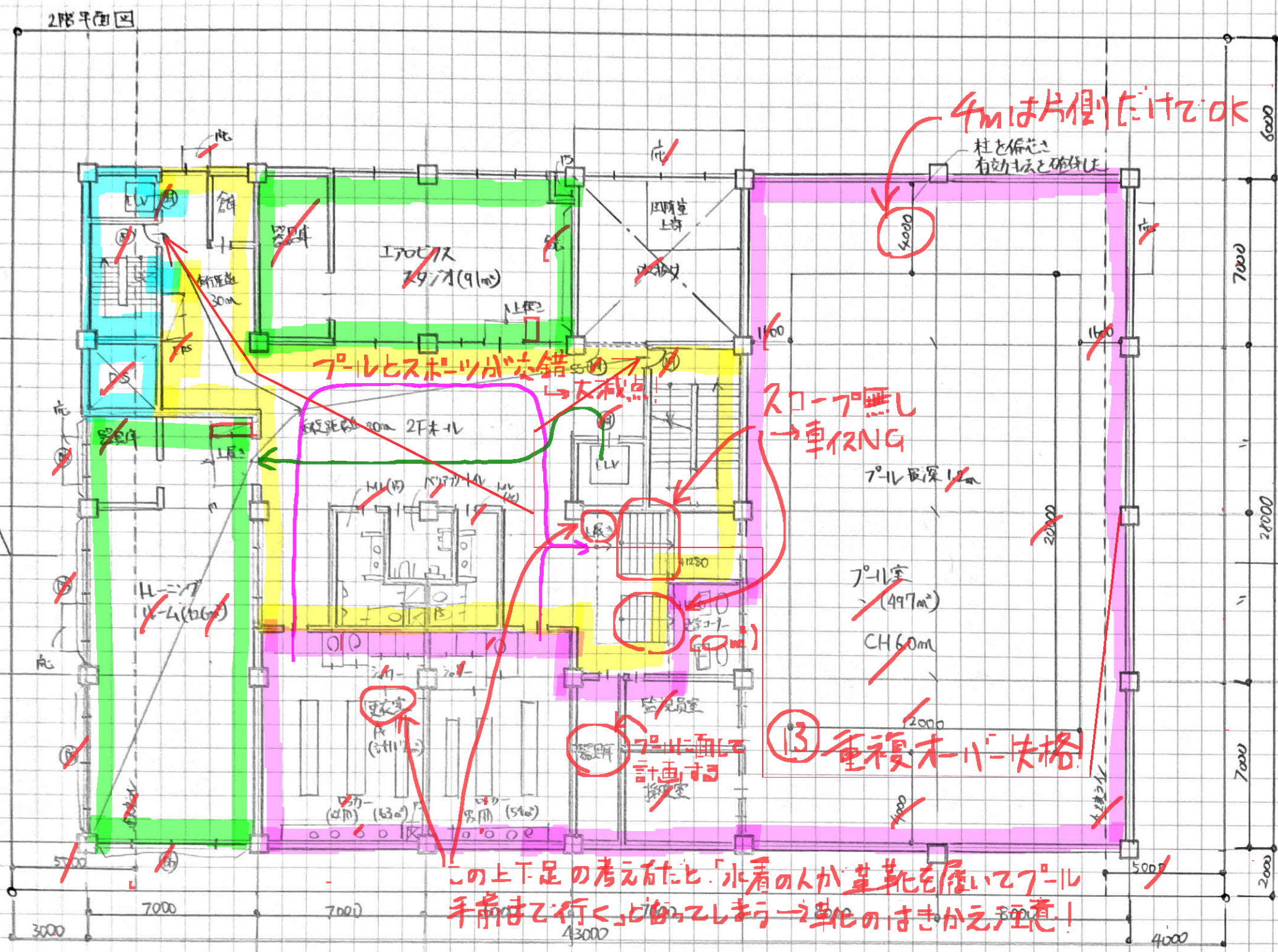




判定: 失格!!
赤削: 本橋直

面積表	43x28 =	合計	時間	課題名	5A
1階	43x28 - 16x28 - 7x7 =	707 m ²	2時間37	これを完成	2時間37
2階	43x28 - 7x7 =	1155 m ²	2時間15	これを完成	2時間15
3階	43x28 =	1204 m ²			
床面積		3066.0 m ²			



令和7年

一級建築士 早期講義

早期課題5A

答案用紙 II

要求図面では表せない建築物の計画上の要点等について、次の(1)~(8)を具体的に記述又は図示する。

(1) 敷地周辺の環境(公園を含む)について配慮したこと

東西南北

北側の歩道に面して喫茶室を計画し、外部からのアプローチしやすさに配慮した。
建物主出入口は、建物中央、次いで車椅子利用者用駐車場、サービス用駐車場に計画し、車と人の歩車分離が明確に分けられるように考慮した。
空調機械室と機械室は西側外部に面して配置して、更新メンテナンスに配慮した。

南・西への配慮も書きたい

(2) 吹抜け及びその周囲の空間において、多くの自然光を取り入れるために、平面・断面計画や開口部について工夫したこと

吹抜けの平・断・開口、周囲の平・断・開口

吹抜けは北側外壁に面したエントランスホール上に計画し、建物主出入口において多くの自然光が入るように大きく開口部を設けた。2階ホールの開口を設け、上下階の建物構成が視覚的によくわかり、快適な開放感のあるように考慮した。

(3) スポーツ関連諸室の配置計画について考慮したこと

主要なスポーツ関連諸室の多くは南側に面して計画し、エアロビクススタジオについても北面に面して開口を広く配置することで、自然採光及び自然通風が積極的に取り入れられるように考慮した。素足又は上履まで利用する居室は、2階・3階に計画し、1階の利用と分けた。利用者の利便性に配慮した。

プール更衣室の配置も書きたい

(4) スポーツ関連諸室から発生する振動及び騒音に対して、上下階及び隣接する室への影響を抑制するために、特に考慮したこと

もう少し説明が欲しい。(ゴム脚、吸音材)

上下階への振動及び騒音に対する配慮としては、床仕上面下に防振防音タイプの2重床を計画した。
隣接室への配慮は、界壁と天井面からスラブまで近接し、天井からの音の伝播が極力ないように考慮した。吸音材入りの乾式遮音間仕切りなど書きたい

床 天井 壁 扉 取り合いを書きたい。答案例以外だと...
防振ゴムにより部材間の縁を切り、振動、騒音の伝播を断ち切る。
吸音ボード及び浮き床

(5) 防火区画(面積区画・堅穴区画)をどのように区画形成したかについて、具体的に記述する

エントランスホール上部の3層吹抜けについては、2・3階の開口部及び1階において特定防火設備で区画することで堅穴区画と面積区画と兼ねる計画とした。
エベータと階段については堅穴区画だが面積区画ともするため特定防火設備で区画とした。

(6) 地盤条件を踏まえて、基礎構造の計画について、基礎の形式、基礎底面のレベルについて考慮したこと

基礎の形式: 建物規模に適したべた基礎を採用した。
基礎底面のレベル: G.L-1.5mまでがN値15程度の地盤条件であるのと、既存建築物撤去範囲がG.L-4.0mまで埋戻しであることから、基礎底面はG.L-2.0mで埋戻し部は地盤改良とする計画とし、効率的な計画とした。

防湿 腐食対策が求められる

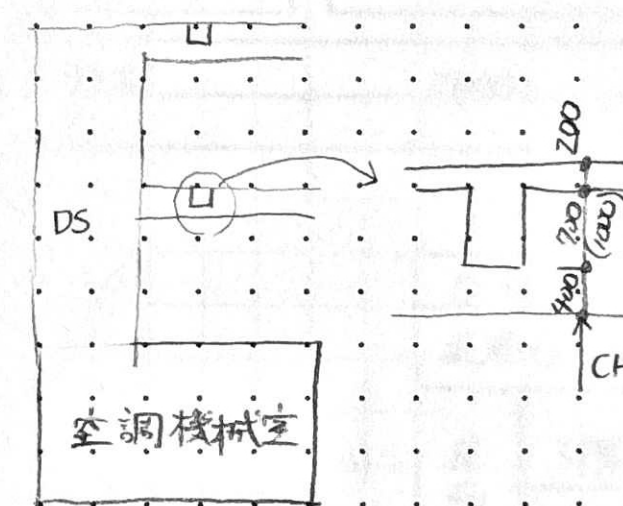
(7) プール室の天井について、天井等落下防止対策について特に考慮したこと

プール室のプール上部においては短辺方向にプレストレストコンクリート梁を配置し、構造架橋白外に安全性に配慮するとともに、天井は特定天井として下地を施工することで地震時にもより安全な天井落下防止対策とした。もう少し詳しく...

今回のプール天井の場合は、特定天井 or 2kg/m²以下軽量天井

(8) 建築物の空調計画(ダクトルート等)について特に考慮したこと

【イメージ図記入欄(必ず記入すること)】



1階の空調機械室上部にDSを配置し、2・3階にも同位置で配置することで効率的なダクトルートとなるように考慮した。天井梁Fについてはダクトルートと確保するため400以上クリアランスを設ける階高と天井高の計画とした。
※大梁は500×700、PC梁は500×1000
空間が大きいのでもう少し書きたい
RAの位置、PADSの場所など